

子育て支援・少子化対策に関するアンケート調査結果について

1. 調査の目的

結婚・妊娠・出産・育児に関する「切れ目ない支援」を実施し少子化対策の強化を図るため、地域少子化対策強化交付金（国10/10）を活用して作成した「出雲いきいきこどもハンドブック」（出雲市子ども・子育て支援事業計画概要版）の配布に合わせ、ハンドブックを読んだ保護者等の意識変容や、市の子育て支援策に対する意見等を把握し、今後の子ども・子育て支援を進めていくうえでの参考とするために、アンケート調査（全18問）を実施した。※調査内容・結果の詳細については、[資料2](#)のとおり。

2. 調査票（ハンドブック）配布先

配布先	配布数(部)
認可保育所・認定こども園	6,500
幼稚園	1,520
認定保育所	130
放課後児童クラブ	1,800
病児・病後児保育施設	280
ファミリーサポートセンター	200
子育て支援センター	1,000
本庁・支所窓口等配布	4,070
イベント等配布	40
民生児童委員	460
計	16,000

3. 調査票回収

配布方法 ハンドブックに調査票と返信用封筒を挟み込み
市ホームページからのダウンロードも可能

回収方法 返信用封筒による郵送

回収期間 H27/6月～H27/12月（集計はH28/2/9着分まで）

回収数 1,361部

※回収数を増やすため、H27/10月中旬に認可保育所・幼稚園を通じて全保護者へ回答依頼文書を配布

※いきいきこどもプラン策定時のアンケート回収は、1,292世帯/3,000世帯（回収率43.1%、25年度実施）

※世論調査等でサンプル数を決定する際の計算式にあてはめて計算すると、必要数は1,000部程度。

4. 調査結果による課題の整理

- 理想の子ども的人数より実際にもたれた（もつつもり）子ども的人数が少ない理由で最も高いものは、「子育てのための経済的負担が大きいから（64.5%）」であった。
- 子育て費用の中で特に負担と感ずるのは、「就学前の保育にかかる費用（42.5%）」、ついで「大学などの高等教育費（35.1%）」であった。
- 市に充実してほしい施策で最も高いものは、「乳幼児医療や保育料の負担軽減など経済的支援を充実する（60.7%）」であった。
- 理想の子ども的人数より実際にもたれた（もつつもり）子ども的人数が少ない理由で2番目に高いものは、「子育てと仕事の両立がむずかしいから（32.0%）」であった。
- 市に充実してほしい施策で2番目に高いものは、「子育てと仕事が両立できる職場づくりなど、ワーク・ライフ・バランスの考えを普及させる（44.4%）」であった。
- 今後利用したいとした制度は、「放課後児童クラブ（473件）」との回答が最も多かった。

5. 自由意見

自由意見記入者数 = 752人

<上位から>

(1) 第3子以降有料化の撤廃	195人
(2) 小学生以降の医療費負担の軽減・無償化	187人
(3) 保育所保育料の軽減	61人
(4) 保育所の定員増加	49人
(5) 企業の理解や雇用環境の充実	54人
(6) 幼稚園の預かり保育の充実・市内一律化	33人
(7) 放課後児童クラブの預かり時間の延長	30人
(8) 保育所の保育時間の延長・一時保育の充実	24人
(9) 不妊治療の助成充実	24人
(10) 病児・病後児保育の拡大	23人
(11) 放課後児童クラブの 土日・長期休業中の預かり対応の改善	20人

6. 評価・今後の活用方法

- アンケートの回答の中で、「ハンドブックは役に立った」・「ハンドブックの内容はわかりやすかった」との回答がいずれも8割を超えたことから、市の子育て支援策の啓発広報について、一定の成果を挙げることができたと評価する。
- 子育てについて負担に感じていることや、制度の認知度など、市民の意見・意識を把握することができ、今後の市の施策展開に役立てることができる。